

夫との思い出を胸に杏心の丘で余生を過ごす

～ 夫の看取りを経験された合志さんが思いを語る ～

はるかぜ訪問看護ステーション



合志正子さんは春日クリニックをかかりつけとし、訪問看護と訪問介護、デイサービスを利用されています。2年前に長年連れ添ったご主人を杏心の丘で看取られました。現在も杏心の丘で元気にお過ごしのか合志さんにお話を伺いました。
(はるかぜ訪問看護ステーション 田中)

3年前にご夫婦で杏心の丘に入居された合志正子さん。ご主人は重い肺の病気で夜間には人工呼吸器を装着しながらの療養生活でした。いつも側について熱心にご主人の介護をされていた正子さん。ほとんど寝たきりで常に介護が必要だったため、訪問診察、訪問看護、訪問介護を利用することはとても安心だったとお話してくださいました。

杏心の丘で好きな事をして過ごしたいというご主人のために好物を準備して食べてもらったり、呼吸リハビリも兼ねた大好きなハーモニカを吹いてもらったり、時には車椅子での外出もしました。

そんな正子さんはこう語ります。「病院に入院していたらきっと、好きな事もさせてもらえなかった。杏心の丘にいたからこそ、主人は楽しくそして安心して最期を迎えることができました。」

年を越せないだろうといわれていたご主人は、なんとお花見にも外出することができました。ピンクに染まった桜をみて、春風を肌で感じ取り、すばらしい笑顔を見せてくださいました。その後、しばらくして安らかにお部屋で天国へと旅立たれました。今年5月は三回忌。杏心の丘に集まれた娘さん方にお話をお聞きする事ができましたのでご紹介します。



毎日仏壇に手を合わせる
正子さん



家族でドライブ

介護度の重い父、軽い母が夫婦で入居しお世話になりました。入居後も父の体調は徐々に下り坂になりましたが、先生方をはじめ看護師の方の熱心な診察や、看護、ヘルパーさんの献身的な介護のお陰で小康状態を保つことができました。春には花見に連れ出しにいただきました。福祉レンタカーで家族揃ってドライブにも行けました。

3月3日の誕生日に動く事が困難だった父を姉妹3人でどうかラウンジまで連れ出し、食卓を家族で囲み夕食を摂りました。「うまかなあ」と言った父の嬉しそうな顔が一番の思い出です。

そして4月に熊本地震があり5月4日に旅立ちました。突然独りになった母を心配しましたが、杏心の丘のスタッフのみなさん、入居者さんとのつながりで母を元気づけてくださり、安心とともに感謝の気持ちでいっぱいです。
(長女、次女、三女より)



誕生日に夜景を見ながら
家族と過ごすご主人



三回忌の家族集合写真
杏心の丘交流ラウンジにて